

兵庫県ワシントン州事務所

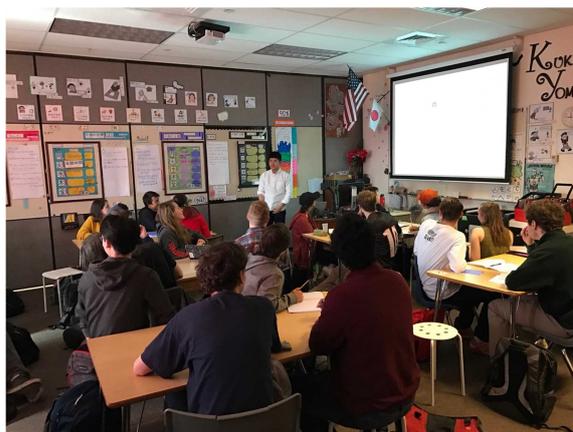
インターンシップ報告書

理学部 2回生
河村 雄太

実施期間：平成 29 年 2 月 15 日（水）～4 月 1 日（土）

インターンシップの研修内容

- バラードハイスクールの日本語クラスでのアシストティーチャー（日本語を学んでいる生徒たちの会話の相手や、文章の添削。日本の若者文化を紹介。海外研修でバラードハイスクールを訪れた日本からの高校生の案内など）
- グローバル教養海外実践（アメリカ）のプログラムに同行し、エバーグリーン大学訪問
- 兵庫県ワシントン事務所でシアトル市長の演説の翻訳、アニメコンベンションのイベントであるサクラコンにて兵庫県とワシントン州、兵庫県とサブカルチャーをテーマにして紹介するためのボードを作成
- ワシントン州日米協会を通じて現地の高校を訪問し、日本文化等を紹介
- ワシントン大学の日本文学の授業に参加
- シアトル・神戸姉妹都市 60 周年の記念パーティーに参加
- エバレットにある JAL のシアトル事務所、川崎重工航空機カンパニーのシアトル事務所訪問
- Kaplan international school（英会話の学校）に 2 週間参加



インターンシップに必要な英語力・スキル

- 私は英語が得意ではなかったが、日常会話（お店や、ステイ先でのコミュニケーション）では文法力や単語力よりも、相手の話を素早く理解して、話せる力が必要であると感じた。また、日本や日本文化に興味のある方は、日本人と話してみたいと思っており根気よく私の話を聞いてくれるので、根気よく伝えるように努めるのも大切。

- インターンシップ先で自分が何を提供できるか、何が得意で何が苦手かを分かっていたら自分の得意なことを生かしてインターンシップできると感じた。
- インターン先にも依ると思うが、パソコンを使えた方がスムーズに仕事ができる。Word、Excel、PowerPoint は必須である。インターン先のパソコンは全て英語なので、普段からパソコンを英語の設定にしておく、悩まなくていい英語の勉強にもなる。

インターンシップで得たこと

- 私が普段気にしていない日本のこと、特に日本の宗教、慣習についてシアトルの人は興味を持っている。それらは私たちの日常生活にも大きく溶け込んでいることであり、地域や家庭によっても大きく異なることなので、普段から少し気にかけて、自分のことを話せるようになることが大事なことだと思った。また、バラードハイスクールで自分の趣味である写真が役に立ち、趣味であっても他の人よりも得意なことはインターンシップにも活かせると感じた。逆に、サクラコンで兵庫県とサブカルチャーをテーマにしたボードを作成したが、私はアニメやマンガに詳しい人ではなかったので苦労した。
- 海外で働いてみたいという漠然としたイメージを持っていたが、実際にいろいろな方と話してみて、シアトルだけでも長期間であったり、短期間の赴任であったり、工業、水産、教育など多種多様な働き方があることに気付けた。
- 英語を勉強したくて英語の学校に通ってはみたが、先生に対して学生の数が多く、思った通りに話せなかった。日本でスピーキング、リスニングを鍛えてから行くのであれば英語の学校に通う効果が高いと感じた。私はその後の、事務所でのサクラコンの準備やバラードハイスクールで英語を多く使ったことの方が英語の勉強になったと思う。



印象に残ったこと

- バラードハイスクールでは、朝の仕事が始める時間も早かったが、それ以上に仕事を出来るだけ早く終わらせて早く帰るということが徹底されていた。バラードハイスクールだけでなく、JAL や川崎重工の方も、シアトルに赴任してきて家族と過ごす時間が増えたとおっしゃっていた。日本企業の事務所であっても、オンとオフのスイッチをしっかりと切り替えることで就業時間後が充実していることに驚いた。スーパーマーケットは夜の8時には閉店するし、夜にはバスの運行本数も減り、土日は開いていない飲食

店も多く、都会だが日本ほど便利な生活を送ることはできないが、近年日本で問題化している長時間労働の原因の一つが24時間365日開店の「便利な」生活であることを考えると、日本とシアトルとどちらが豊かな生活であるかについて考えさせられた。

インターンシップが今後どう活かされていくか

インターンシップを通して、仕事で英語を使うにはまだまだ英語力が足りないと思った。特に、リスニング、リーディング、ポキャブラリーが不足していることがわかったので、そこを重点的に練習するように心がけている。インターンシップでは、今学校で勉強していないこと（パソコンや教養など）が生きてきたので、私の学校の専門の科目以外にも興味のあるものにいろいろと手を出してみたり学んできたりしている。そういった勉強のスタイルも悪くないということを確認できた。今後もそういった専門以外の知識が生きてくることもあると思うので、引き続きいろいろなことに挑戦していきたいと思う。

後輩たちへのメッセージ

日本から1ヶ月以上も離れて暮らすということは、すごく不安で大変なことだと思うけど、それ以上に面白いものがあるって、行ってみたらもっとワクワクしてあつという間に春休みが終わってしまったというくらい充実したインターンシップであった。春休みを有意義に使いたい、楽しみたいなら応募する価値はすごくあると思います！